

令和6年度
赤穂市立赤穂東中学校
「学校だより」

若木

NO. 2
令和6年5月7日発行
文責 校長（入潮 賢和）

自分で体験することが学びの基本

新年度が始まって1カ月が過ぎました。対面式や家庭訪問、大型連休もありあったという間の日々だったのではないのでしょうか。

さて、5月は、体験学習の多い月になります。1年生は、9日・10日に兵庫



県立嬉野台生涯教育センターにおいてHAP体験(兵庫冒険教育)、3年生は、21日から23日まで沖縄への修学旅行があります。

これら体験を通し「信頼関係」「コミュニケーション能力」「自己肯定感」「チャレンジ精神」や「主体的で深い学び」につなげていきます。

人は、自分で体験したことを通し学んでいくといわれています。

その例として、ドイツの教育学者・哲学者・心理学者のシュプラランガー博士(1882～1963年)は、「他人の心の動きは、自分の体験に照らしてしか理解できない」自分で実際に体験したこと



でないといふと自然の豊かさや人の心の様子は理解しにくいと述べています。

確かに、私たちは、実際に森林の中を歩くとき、草木

の香りを感じ、自然のすばらしさを知ります。人を思う体験があつてはじめて悲しさや嬉しい気持ちがわかります。文章や言葉で自然や人間の尊さを言われても実感はしにくいのです。

さらに、人は、自分で地道に積み重ねて体験したことは真にわかるといわれています。

例えば、テスト勉強で、塾や参考書にうまくまとめてあるものを付け焼き刃で覚えても、テストが終わるとすぐに忘れてしまいます。ところが、自分でよく考え工夫してまとめた内容は不思議とよく覚えていたり、他の場所で役に立ったりすることがあります。

これは、自分で苦勞して地道に繰り返した「体験」が人間の真の学力や対応力・判断力として根つき、応用力にもなっているからです。

人間には、体験を基にした予測・予知能力が形成され、体験したことから飛躍した学習成果も生まれてきます。

中学時代が人生のなかでもとくに輝いていたと振り返る人が多いのは、たくさんの価値のある「体験」があるからだといわれています。すべて人生の思い出として永遠に残る貴重な体験を積み重ねて、真の学習を積み上げてほしいと思います。生徒の皆さんのよき体験を期待します。

学校における電話対応時間の設定についてのお知らせ

教員の多忙化・長時間労働を解消し、授業づくりや学級事務等に専念できる環境をつくるため、電話対応時間の設定を実施させていただくこととなりましたので、お知らせいたします。時間外については、自動音声によるメッセージ対応とさせていただきます。

○ 運用開始 令和6年5月7日(火)

○ 電話が通じる時間

通常授業日

3月～9月：7時40分～18時30分

10月～2月：7時40分～18時

長期休業中：8時～16時25分

(電話メッセージ対応時間の前に全職員が退勤する場合もございます。)

どうぞよろしくお願ひいたします。



